

## 【東京都】東京医科大学病院 泌尿器科



### 【当院の立地】

東京医科大学病院は、西新宿の高層ビル群の中に位置し、地下鉄「西新宿」駅に直結する都市型の大学病院です。東京都区西部医療圏（新宿区、中野区、杉並区）の基幹病院としてだけでなく、それぞれの医療分野において高度医療を提供できる医療機関として活動しています。2019年7月に青梅街道沿いに開院した地下2階、地上20階の新病院は“Neat（上品・端正・洗練）&Clean（清潔・純粋・高潔）”をコンセプトに、患者さんにとって快適な療養環境を整えた大学病院として稼働しております。



### 【東京医科大学泌尿器科について】

東京医科大学泌尿器科は1944年に皮膚泌尿器科から独立し、今年で77年目となります。2017年4月からは大野芳正教授が第6代教授に就任されています。現在、7名のスタッフ医師と6名のレジデントにて診療を行っています。1カ月の外来患者数は約2300人であり、入院に関しては病棟定床数45床で、ほぼ満床で稼働しています。1週間に15～20件の手術が組み立てられており、泌尿器科従来の経尿道的手術や開腹手術から、腹腔鏡手術やロボット支援下手術まで、バランスよく施行されています。特に当科では2006年に国内で初めて前立腺癌に対するロボット支援下前立腺摘除術を導入し、国内トップレベルの手術実績を取っています。このため入局後すぐにロボット支援下手術の助手として参加し、手術について学ぶことができます。また東京医科大学病院ではダヴィンチシステムを2台、専用手術室に設置しています。そのうち1室は写真に示すように dual console systemとしており指導医とともに手術を行える体制を整えています。手術シミュレーターも設置されているのでいつでもトレーニングをすることができます。また前立腺癌の治療には小線源療法、強度変調放射線治療、薬物療法など、多岐にわたる治療方法がありますが、そのすべてを患者さんに提供できる体制を整えています。前立腺癌以外のロボット支

援手術としては、腎臓癌に対する腎部分切除術、浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘除術、先天性水腎症に対する腎盂形成術も行っています。泌尿器科は外科から最初に独立した科であり、膀胱鏡検査、経尿道的手術、体外衝撃波結石破碎術、腹腔鏡手術、ロボット支援下手術と常に新たな医療機器の開発と深く関わってきた分野です。このため泌尿器科悪性腫瘍から前立腺肥大症、尿路結石などの良性疾患に至るまで多くの領域の手術を行う外科



系分野ですが、内分泌療法、抗がん化学療法、分子標的治療、免疫治療などの薬物治療も自らがっており内科的側面も合わせもっており、多くの治療法について学ぶことができます。

### 【病院での1週間】

東京医科大学病院での勤務は、毎週月曜から金曜日までと、第1、3、5土曜日となります。病棟業務は3チーム体制で行っています。1チームは4名で、スタッフ医師、チーフレジデント、後期研修医で構成されています。泌尿器科の手術日は（火）（水）（木）の3日間ですが、働き方改革に合わせてそれぞれのチームが1日ずつ手術日を担当し、手術を行っています。手術日以外はそれぞれのチームの検査、処置などを行い交代で休みが取りやすい体制としています。症例カンファレンスは月曜日に行い、その週の手術症例の最終確認と2週間先の手術予定症例の事前チェックを行っています。

### 【臨床研修について】

東京医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、東京医科大学病院を基幹施設とし、7つの連携施設（①東京医科大学八王子医療センター、②東京医大茨城医療センター、③新百合ヶ丘総合病院、④赤羽中央総合病院、⑤山王病院、⑥厚生中央病院、⑦湘南東部総合病院）で構成されています。ダヴィンチシステムは3つの連携施設に設置されています。都会拠点病院、地方拠点病院を含み、幅広い研修が可能です。1年目は東京医大病院で研修を開始し、その後連携施設で研修を積みまします。

### 【おわりに】

手術件数が多いため、手術日は忙しくなりますが、曜日担当制ですので、メリハリのある1週間を過ごすことができると思います。現在はコロナ禍のため勤務後の飲食は制限がありますが、制限が緩和されれば西新宿でのナイトライフを楽しむこともできるのも東京医科大学病院の魅力の1つです。

